

NYPPDでの射撃訓練場では、見たこともないデカさのマシニングガンの迫力にぶっ飛ばされたが、大変「タメ」になった1日だった。

アメリカセキュリティ視察第六弾!! 年の瀬ということもあり、少し頭を柔らかくする情報をお伝えしよう。「斬、耕平が斬る！」

夜のNYCを堪能する・・・

刺激的なライカーズアイランド刑務所、そしてNYPPD、どれを取っても、一生のうち二度と経験できないものだった。

決して少なくない刺激的な人生を多く経験していると思ってる小生も、このツアーには感動しっぱなしである。

そろそろ、湯気が出そうな頭を、Cool Downしなければならぬ。

と言いつつも、ホテルに帰っていく間もなく、ハード

ソリバーから出航するクルーズ船に乗り込んだ。



ハドソン川に浮かぶクルーズ船。

サンセットクルーズ・・・

俺たちはいつもと変わらぬスーツを着て、船着き場に着いた。

しかし、周りを見るとその

カ系フリーメイソンへ送られた贈り物であることも。

船内は大騒ぎ・・・

我々日本人（我々一行十カプル二人）は、三階のデッキ付近で食事をした。

おそらくその頃の日本人は、若いカップルでさえ金があり、特別に景色の良いところを陣取る事が出来たのだろう。

しかし、小生には二階の喧騒が気になって仕方ない。大人しく食べてる我々と違って、まあ、大きな声で賑やかなこと!

そして、音楽が流れ始めた。最初の曲は覚えていないが、曲が『YMCA』に変わった途端、大声が歓声へと変わった。

そして全員で大声で歌いながら、踊り始めたではないか! あゝあ気になる。もういい、このおじさん達を（返す返すも失礼!）置いて、下へ繰り出さねば!

「俺、下に行つてきます!」「え、本当に行くの!?!」「行きませよ行きませよとも、いや、いかいでか!!」

全員で『YMCA』・・・

二階に降りると、踊りが輪になり、みんなが数珠繋ぎになつていた!

当然その中に飛び込み、巨大なヒップに手をかけた。（自分の身長では肩まで届かないから、仕方ありません・・・）『Y・M・C・A』と秀樹を感激させるほどの大声で歌い踊りました。

さらには、階段を数珠繋がりそのまま登り、皆んなの前まで。「さあみんな、踊ろうぜ!!」残念ながら誰もついてきません。

「あさまへん、日本の皆さんはシャイでんな、なんぼ誘つても踊ってくれはらしまへん!」

と関西弁で嘆きつつ、踊つた踊つた。なんでこの俺の勇姿を誰も写真に収めてくれなかったのか、最高の記念になつたのに。

しかし長い曲だ。結局下まで降りフィナーレ。周りの人と片っ端からハグをしてお別れ。

「つくづく俺って日本人に向いてないな」と嘆いたものです。

その後もホテルで同室のM

艶やかに驚いた。

「おいおい! いったい何が起きるんだい!?!」

なんととっても黒いドレスにネックレスや腕輪が金ぴかの女性たち。男性ですら、我々が着ているヨレヨレの（オット失礼、他の方はそうではありませんよ）スーツとは全く違いキラキラと光沢があり、靴さえもエナメル製のキラキラの輝きを放っている。「何か、結婚式でもやるのかな?」

「いえ、これが彼達の楽しみ

社長と酒を飲んだのですが、流石に疲れ果て、一杯のスコッチで熟睡、お休みなさい。

翌日国連本部へ・・・



国連本部。

「気高い建物だな」とこれが第一印象です。世界各国の国旗が風になびいていて、って、「格好良いな」とが、次の印象です。

そして、玄関前のモニュメントを見て、「良いことやってるじゃん」(なんで上から目線?)、これが三番目の印象。

中に入ってみると、月の石が置いてある。

「おお! これこれアポロ11号が持ち帰った月の石か、凄げ〜!」

とまたまた4回目の感動。

エンパイアステート・・・

さてキングコングが登った有名なエンパイアステートビル。子供の時に、キングコングがよじ登り、複葉機との戦いの末、転落死したシーンは

方なんですよ!

と、主催者のK氏。

俺以外の皆さんも、胸元ががっばり空いた谷間や、スリットの間から、とても収まりきらない真っ白で長い足に、生睡を、ゴククン。

サンセット・・・

ハドソンリバーに夕日が落ちていく。実は昨年も同じくサンセットクルーズに乗船した。天気も良かったが、やはり最初に見たこの時の夕日は敵わない。

あまりにも強烈に脳裏に焼きついている。そのビルについて登ることができる。言いようのない興奮が俺を襲う。

上りノエスレーターでは、耳抜きをしなくてはならない。流石は世界一のビルだけのことはある、とまたまた感心。



エンパイアステートビルのエレベーター前で、北海道のH社長とM社長。

ワールド・トレード・センター・・・

屋上に上がり、NYCの摩天楼に感動しつつ、写真をパチリ。その中の数枚に、今は亡きワールド・トレード・センタービルが写っている。昨年グラウンドゼロに立った

自由の女神・・・

さて、どうしても死ぬまでに一度は見たかった自由の女神像に向かった。

しばらくし、夕焼けの茜空から夜の帳が下りる頃、自由の女神は俺たちの前へと姿を現した。

高さは台座の下から松明の先まで93mある。

デッキには乗船した客が全員出てきている。そしてやいのやいの大喝采が始まる。カップルたちはキスをしながら、自由の女神を背景に写真を撮っている。



自由の女神。

豆知識だが、自由の女神の正式名称をご存知か?

「Statue of Liberty」なんて英語を教えたいのではない。

正式には、

「世界を照らす自由 (Liberty Enlightening World)」と云う事を、意外と知らない人が多いのでは。さらにフランス系フリーメイソンから、アメリカ

時、その時の思いが蘇るとともに、テロの犠牲になられた方々を思い涙したものだ。



エンパイアステートビルの屋上から、今は亡きワールド・トレード・センタービルを背景に記念撮影。

さて、今回はセキュリティに全く関係の無い、1999年のNYCについて紹介した。今回は新たな展開を始めるか?

そのつもりで今回の号を書いていたのだが、もう少しNYCについて語らしてもらいたくなった。

今年これで終わり。皆様良いお年をお迎えください。次回も緩く、斬らして、頂こう。



なかの こうへい
1957年高知県出身。大手OA機器販売メーカー・大手建設会社などでの勤務経験の後、パチンコ業界に入る。その後、三十年以上にわたり、パチンコ業界の全てを研究しつつ、各遊技業協同組合でも不正防止講演会に講師として参加するなど、不正防止の知識を広く伝えるべく活動を行っている。



記事に関するお問い合わせはA・P総研まで Tel.03-3202-0971